

- Y., Motoyoshi, K., Okazaki, T., Nakachi, K., Fujita, T. and Hayashi, S. : Expression profile of selected estrogen-regulated genes predict prognosis of nuclear receptor-positive breast cancer. The American Endocrine Society's 86th Annual Meeting, 2004.
- 18) Saji, S., Hayashi, S., Yoshida, N., Inoue, A., Hirose, M., Horiguchi, S., Toi, M. : Expression of novel estrogen-regulated gene HDAC6 correlates to the prognosis of ER-positive breast cancer. Keystone Symposia: Nuclear Receptor Superfamily, 2004, Utah, USA
- 19) 佐治重衡、林 慎一、吉田敦行、井上暁夫、広瀬牧子、堀口眞一郎、戸井雅和：新規エストロゲン誘導遺伝子 histone deacetylase 6 (HDAC6)はER $\alpha$ 陽性乳癌患者の予後と tamoxifen 感受性を予測する。第12回日本乳癌学会総会，2004，北九州。
- 20) 山口ゆり、武井寛幸、末益公人、黒住昌史、原田信広、林 慎一：乳癌における間質細胞の特性と予後因子との相関。第5回ホルモンと癌研究会，2004，大阪。
- 21) 山口ゆり、武井寛幸、末益公人、小林康人、黒住昌史、原田信広、林 慎一：間質細胞による乳がんのエストロゲンシグナルの制御機構および予後因子との相関。第63回日本癌学会総会，2004年，福岡。
- 22) 荘巖哲哉、江口英孝、中地 敬、林 慎一、正村滋：エストロゲン枯渇耐性乳がん細胞株におけるエストロゲン受容体 $\alpha$ の機能・発現制御。第27回日本分子生物学会年会，2004年，神戸。
- 23) Hayashi S. : ER $\alpha$ , ER $\beta$  and basic approach for prediction of endocrine-therapy. 学術振興会日米がん研究協力事業セミナー「Role of nuclear receptors in carcinogenesis」，2004年，ハワイ。
- 24) 林 慎一：乳癌におけるエストロゲンシグナル動態の解析と臨床応用。第77回日本内分泌学会学術総会シンポジウム「内分泌代謝学と癌研究」，2004年，京都。
- 25) 林 慎一：エストロゲンシグナル研究と内分泌治療奏効性予測。第5回乳癌最新情報カンファレンス，2004年，和歌山。
- 26) 林 慎一：癌細胞のホルモン依存性増殖と臨床応用。第75回藤田保健衛生大学医学セミナー特別講演，2004年，名古屋。
- 27) 林 慎一：癌細胞のホルモン依存性増殖機構とその臨床応用。第34回東北大学医学部保健学科学術研究会，2004年。
- 28) 林 慎一：エストロゲンシグナルと内分泌治療反応性予測。乳癌トランスレーションリサーチセミナー招聘講演，2004年，仙台。
- 29) 林 慎一：乳がんの内分泌治療効果予測を目指した基礎研究。第63回日本癌学会総会シンポジウム「乳がん診療のための最先端研究」，2004年，福岡。
- 30) 林 慎一：性ステロイド依存性腫瘍におけるアンドロゲンとエストロゲン作用の類似点と相違点。第1回東北ホルモンと癌研究会講演，2004年11月，仙台。
- 31) 林 慎一：乳癌内分泌治療のための分子診断法開発。第8回Breast Cancer UP-TO-DATE Meeting, 2005年1月，横浜。
- 32) 林 慎一：乳癌内分泌治療のための分子診断法開発。第8回Breast Cancer UP-TO-DATE Meeting, 2005年，横浜。
- 33) Shin-chi Hayashi: Estrogen Signaling and Prediction of Endocrine-Therapy. 20<sup>th</sup> Bristol-Myers Squibb Nagoya International Cancer Treatment Symposium, 2005, Nagoya.
- 34) 林 慎一：内分泌療法奏効性予測の為の分子診断法開発。Breast Cancer Forum in Nagoya, 2005, Nagoya.
- 35) 林 慎一：乳癌のホルモン感受性の基礎的研究。第13回日本乳癌学会総会シンポジウム「乳癌のホルモン療法・基礎と臨床」，2005年，倉敷。
- 36) 林 慎一：エストロゲン依存性癌の内分泌治療のための基礎研究。第78回日本内分泌学会学術総会シンポジウム「がんの増殖進展と内分泌学的メカニズム」，2005年，東京。
- 37) 林 慎一、山口ゆり：エストロゲン依存性がんの分子標的治療のための基礎研究。第64回日本癌学会学術総会シンポジウム「ホルモン依存性癌研究の展開」，2005年，札幌。
- 38) 伊藤 潔、鈴木 貴、宇都宮裕貴、田村充利、永瀬 智、新倉 仁、林 慎一、笹野公伸、八重樫伸生：子宮内膜癌局所での性ステロイド代謝機構の検討—新たな内分泌治療法の可能性。第64回日本癌学会学術総会シンポジウム「個別化治療への最先端研究：婦人科がん」，2005年，札幌。

- 39) Shin-ichi Hayashi : Biomarkers for prediction of response to hormonal therapy in breast cancer. The 9<sup>th</sup> US-Japan Cellular and Gene Therapy Conference, Genomics and Proteomics Technology in Biomarker Discovery, 2006, Feb. in NIH Bethesda USA.
- 40) 山口ゆり、武井寛幸、末益公人、小林康人、黒住昌史、原田信広、林 慎一 : 乳癌の微小環境におけるエストロゲンシグナル制御機構の解析. 第4回ステロイドホルモンを考える会, 2005年3月, 東京.
- 41) 林 慎一、松本光代、坂本宙子、岩瀬弘敬、佐治重衡、戸井雅和、木山亮一、原田信広、八重樫伸生、笹野公伸、武井寛幸、黒住昌史、山口ゆり : エストロゲン依存性腫瘍の分子診断法開発. 第2回東北大学バイオサイエンスシンポジウム, 2005年5月, 仙台.
- 42) 太田恭子、伊藤 潔、鈴木 貴、齋藤純香、林 慎一、笹野公伸、八重樫伸生 : 子宮内膜癌における Peroxisome Proliferator-activated Receptor  $\gamma$  についての検討. 第6回ホルモンと癌研究会, 2005年7月, 名古屋.
- 43) 山口ゆり、武井寛幸、末益公人、小林康人、黒住昌史、原田信広、林 慎一 : 乳癌の微小環境によるエストロゲン受容体の活性化と増殖促進作用. 第6回ホルモンと癌研究会, 2005年7月, 名古屋.
- 44) 三田圭子、安藤由明、濱口真帆、林 慎一、岩瀬弘敬、山下啓子 : 乳癌組織における IGFBP4 および IGFBP5 の発現の検討. 第6回ホルモンと癌研究会, 2005年7月, 名古屋.
- 45) 山口ゆり、武井寛幸、末益公人、小林康人、黒住昌史、原田信広、松本光代、清野祐子、林 慎一 : 乳癌の微小環境によるエストロゲン受容体の活性化と増殖促進作用. 第64回日本癌学会学術総会, 2005年9月, 札幌.
- 46) 三田圭子、山下啓子、安藤由明、濱口真帆、藤井義敬、林 慎一、岩瀬弘敬 : 乳癌組織における IGFBP5 の発現の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005年9月, 札幌.
- 47) 松本光代、坂本宙子、山口ゆり、清野祐子、武井寛幸、末益公人、黒住昌史、笹野公伸、八重樫伸生、林 慎一 : 3次元マイクロアレイを用いた乳癌治療反応性診断システムの開発. 第64回日本癌学会学術総会, 2005年9月, 札幌.
- 48) 荘巖哲哉、江口英孝、中地 敬、林 慎一、正村滋 : エストロゲン枯渇耐性 MCF-7 細胞におけるプロモーターCの脱メチル化と ER $\alpha$  の高発現との関連. 第28回日本分子生物学会年会, 2005年12月, 福岡.
- 49) 林 慎一 : エストロゲン依存性腫瘍(乳癌・子宮癌)の新規分子機能診断法開発. 東北大学イノベーションフェア 2006, 2006年2月, 東京.
- 50) 山口ゆり、清野祐子、武井寛幸、林 慎一 : 乳癌の微小環境が制御するエストロゲンシグナルと増殖促進作用機構. ステロイドホルモンを考える会, 第5回研究発表会, 2006年3月, 東京.
- 51) 松本光代、山口ゆり、杉橋陽子、鈴木 貴、笹野公伸、伊藤 潔、八重樫伸生、林 慎一 : 子宮体癌におけるエストロゲンシグナルを介した癌微小環境の解析. 第7回日本がん分子疫学研究会学術集会, 2006年5月, 広島.
- 52) 三木康宏、鈴木 貴、山口ゆり、本間誠次郎、北田邦雄、林 慎一、笹野公伸 : ヒト乳癌組織におけるアロマトーゼの局在-乳癌細胞および周囲間質細胞の相互作用. 第3回東北大学バイオサイエンスシンポジウム, 2006年5月, 仙台.
- 53) 鈴木 貴、三木康宏、森谷卓也、石田孝宣、菅原明、林 慎一、大内憲明、笹野公伸 : 乳癌組織における核内受容体 peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) の発現意義. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006年5月, 神戸.
- 54) Matsumoto, M., Yamaguchi, Y., Seino, Y., Takei, H., Yaegashi, N. and Shin-ichi Hayashi. Visualization and characterization of estrogen-signal susceptibility in individual estrogen-dependent cancer by adenovirus-ERE-GFP Assay. 20<sup>th</sup> IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11<sup>th</sup> FAOBMB Congress, 2006, June, Kyoto.
- 55) 松本光代、山口ゆり、杉橋陽子、鈴木 貴、笹野公伸、伊藤 潔、八重樫伸生、林 慎一 : 子宮体癌の微小環境におけるエストロゲン受容体活性化の解析. 第7回ホルモンと癌研究会, 2006年6月, 前橋.
- 56) 三木康宏、山口ゆり、本間誠次郎、鈴木 貴、林 慎一、笹野公伸 : ヒト乳癌組織におけるアロマトーゼの発現-癌細胞・間質細胞の相互作用. 第7回ホルモンと癌研究会, 2006年6月, 前橋.

- 57) 山口ゆり、武井寛幸、末益公人、小林康人、黒住昌史、清野祐子、坂本宙子、松本光代、林 慎一：乳癌の微小環境が制御する増殖促進作用とエストロゲンシグナル。第7回ホルモンと癌研究会，2006年6月，前橋。
- 58) Yamaguchi Y., Takei, H., Kurosumi, M., Seino Y., Hayashi S. Regulation of growth and estrogen signals by tumor microenvironment in human breast cancers. 12<sup>th</sup> International Congress on Hormonal Steroids and Hormones & Cancer, 2006, September, Atenes-Grees.
- 59) 松本光代、山口ゆり、鈴木 貴、笹野公伸、伊藤潔、八重樫伸生、林 慎一：子宮体癌のエストロゲンシグナルを標的とした治療をめざして。第5回日本婦人科がん分子標的研究会学術集会，2006年8月，東京。
- 60) 三木康宏、鈴木 貴、山口ゆり、森谷卓也、林 慎一、大内憲明、笹野公伸：ヒト乳癌アロマトーゼの腫瘍内局在と発現機序の検討。第65回日本癌学会学術総会，2006年9月，横浜。
- 61) 松本光代、山口ゆり、鈴木 貴、笹野公伸、伊藤潔、八重樫伸生、林 慎一：微小環境に依存した子宮体癌のエストロゲン受容体活性化の解析。第65回日本癌学会学術総会，2006年9月，横浜。
- 62) 植山美穂、小川慎一、滝口総一、藤也寸志、汜吳強、柳瀬敏彦、林 慎一、池田 都、片岡泰文、井口東郎：MTA1 及び MTA1 s の癌悪性化に関連した機能解析。第65回日本癌学会学術総会，2006年9月，横浜。
- 63) 山口ゆり、武井寛幸、末益公人、島田佳弘、小林康人、黒住昌史、清野祐子、松本光代、林 慎一：乳癌の微小環境によるエストロゲンシグナルと増殖促進作用。第65回日本癌学会学術総会，2006年9月，横浜。
- 64) 東浩太郎、堀江公仁子、大内尉義、林 慎一、堺隆一、井上 聡：乳癌細胞における膜局在エストロゲン受容体結合因子の解析。第6回関東ホルモンと癌研究会，2006年12月，川越。
- 65) 鈴木 貴、三木康宏、森谷卓也、赤平純一、石田孝宣、平川 久、山口ゆり、林 慎一、笹野公伸：乳癌組織におけるアンドロゲン濃度。第14回日本ステロイドホルモン学会学術集会，2006年12月，大阪。
- 66) 長崎修治、中村保宏、三木康宏、赤平純一、鈴木貴、林 慎一、笹野公伸：前立腺癌細胞における Estrogen receptor beta 及び beta cx の機能解析。第14回日本ステロイドホルモン学会学術集会，2006年12月，大阪。
- 67) 赤平純一、鈴木 貴、三木康宏、長崎修治、伊藤潔、森谷卓也、林 慎一、八重樫伸生、笹野公伸：ヒト上皮性卵巣癌における Estrogen related receptor (ERR)の発現と臨床病理学的因子との関連について。第14回日本ステロイドホルモン学会学術集会，2006年12月，大阪。
- 68) 角 純子、中川原 章、花田良二、金子安比古。血清 NM23 蛋白質による腫瘍の予後診断とその生物学的基盤の解析。第63回日本癌学会総会，2004。
- 69) 新津 望、角 純子、東原正明、本間良夫、平野正美。細胞質内 nm23-H1 陽性の末梢性 T 細胞リンパ腫患者の予後は不良である。第63回日本癌学会総会，2004。
- 70) 角 純子、金子安比古。血清 NM23 蛋白質による神経芽腫の予後診断。第5回神経芽腫（基礎）研究会，2004。
- 71) 角 純子、粕壁 隆、小林泰文、柵木信男、本間良夫、金子安比古。「NM23 蛋白質は初代培養の白血球細胞の増殖・生存を促進する」(2005)、第64回日本癌学会。
- 72) 粕壁 隆、角 純子、本間良夫。「分化誘導剤 cotylenin A と rapamycin による乳癌細胞増殖抑制における cyclin G2 の役割」(2005)、第64回日本癌学会。
- 73) 角 純子、粕壁 隆、久保田靖子、小林泰文、柵木信男、本間良夫、金子安比古。「NM23 蛋白質による初代培養白血球細胞の増殖・生存促進作用」(2005)、第67回日本血液学会総会。
- 74) Okabe-Kado,J., Kasukabe, T., Kubota, N., Kobayashi, H., Maseki,N., Honma, Y., Kaneko, Y. Extracellular NM23 protein promotes growth/survival of human acute myeloid leukemia cells. The 6th International Congress of the Genetics, Biochemistry and Physiology of Nm23 /NDP kinase /Awd (Naples, Italy), 2005.
- 75) 角 純子、粕壁 隆、本間良夫、小林泰文、柵木信男、金子安比古：細胞外 NM23 蛋白質が初代培養の白血球細胞に誘導するシグナル伝達系。第65回癌学会総会，2006。

- 76) Okabe-Kado, J., Kasukabe, T., Kobayashi, H., Maseki, N., Honma, Y. and Kaneko, Y. Effect of extracellular NM23 protein on *in Vitro* survival of normal PBMNC and acute myeloid leukemia cells. 48<sup>th</sup> Annual Meeting of American Society of Hematology, 2006.
- 77) 角 純子: 造血器腫瘍における血清 NM23 蛋白質の生物学的意義. 第 1 回山陰血液疾患研究会, 2006.
- 78) 山口研成, 島村智崇, 石窪力, 藤野喜理子, 山田麻子, 有馬美和子, 神田裕三, 多田正弘. C 型肝炎による肝細胞癌治療後におけるインターフェロン治療の問題点. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004, 京都.
- 79) 齊藤聡, 山口研成, 島村智崇, 坂田優, 棟方正樹, 小松嘉人, 高金明典, 阿部薫, 吉岡孝志, 金丸龍之介, 斎藤博. 胃癌患者に対する Paclitaxel と Cisplatin の隔週併用化学療法 of 臨床試験. (中間報告) [東日本胃癌化学療法研究会] 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004, 京都.
- 80) 島村智崇, 山口研成, 石窪力, 藤野喜理子, 山田麻子, 有馬美和子, 神田裕三, 多田正弘. 転移性結腸・直腸癌に対する 5FU - leovorinate (I-LV) 療法 (de Gramont 法) の治療成績. 第 42 回日本癌治療学会総会, 2004, 京都.
- 81) 下條誉幸, 山口研成, 赤木 究. Methylation specific LMP (MS-LAMP) 法の開発. 第 63 回日本癌学会総会, 2004, 福岡.
- 82) 赤木 究, 山口研成, 神津知子. 大腸癌におけるゲノムの不安定性と *KRAS, BRAF* 遺伝子変異の検討. 第 63 回日本癌学会総会, 2004, 福岡.
- 83) 菅沼雅美, 来須美樹, 鈴木香, 山口研成, 藤木博太. N-Acetylcysteine による *H. pylori* 発がん因子 Tip の 2 量体形成阻害を介する新しいがん予防機構. 第 63 回日本癌学会総会, 2004, 福岡.
- 84) 八岡利昌, 石窪 力, 新井吉子, 西村洋治, 網倉 克己, 坂本裕彦, 山口研成, 神田裕三, 田中洋一, 赤木 究. MSI 陽性直腸癌の臨床病理学的検討. 第 63 回日本癌学会総会, 2004, 福岡.
- 85) Hamaguchi, T., Ohtsu, A., Hyodo, I., Arai, Y., Takiuchi, H., Fujii, H., Yamaguchi, K., Yoshida, M. and Shirao, K. A phase II study of biweekly irinotecan and mitomycin C combination therapy in patients with fluoropyrimidine -resistant advanced gastric cancer: The Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG0109). Abstract No: 4071 :Journal of Clinical Oncology, 2004 ASCO Annual Meeting Proceedings (Post-Meeting Edition). Vol 22, No 14S (July 15 Supplement), 2004.
- 86) Shirao, K., Doi, T., Hatake, K., Arai, Y., Yamaguchi, K., Hyodo, I., Tamura, T., Takemiya, S., Takiuchi, H. and Sakata, Y. Efficacy and safety findings from a phase II study of capecitabine (X) as first-line therapy in Japanese patients (pts) with advanced / metastatic colorectal cancer (MCRC) for the Capecitabine MCRC Study Group in Japan. 2005 ASCO Annual Meeting.
- 87) Hyodo, I., Yamaguchi, K., Koizumi, W., Narahara, H., Kato, T., Akiya, T. and Sakata, Y. Phase I / II study of docetaxel (DOC) and S-1 for patients (pts) with advanced gastric cancer (AGC) I. Taxotere Gastric Cancer Study Group, 2005 ASCO Annual Meeting.
- 88) 山口研成, 坂田優, Yeul-Hong Kim. 「胃癌に対する臨床試験ーアジアにおける連携ー」胃癌患者に対する Paclitaxel と Cisplatin の隔週併用化学療法の第 2 相臨床試験. 第 78 回日本胃癌学会総会, 2005 年.
- 89) 山口研成, 新井吉子, 石窪 力, 八岡利昌, 多田正弘, 赤木 究. BRAF 遺伝子における V599E 変異の高感度検出系の開発. 第 64 回日本癌学会総会. 2005 年 9 月, 札幌.
- 90) Yatsuoka, T., Nishimura, Y., Tanaka, Y. and Akagi K. The clinical features of the colorectal cancers with high level of the microsatellite instability. The 20th World Congress of Digestive Surgery 29 November - 2 December 2006, Rome, Italy.
- 91) 赤木 究, 下條誉幸, 新井吉子, 金子安比古, 神津知子, 小林泰文, 柵木信男. RT-LAMP 法による慢性骨髄性白血病の高感度遺伝子診断. 第 65 回日本癌学会学術総会. 9 月, 横浜.
- 92) 神津知子, 田中陽一郎, 赤木究. AML1-MTG8 のノックダウンによる白血病細胞の遺伝子発現プロファイルの変化. 第 65 回日本癌学会学術総会. 9 月, 横浜.
- 93) Sudo, J., Akagi, .K., Sakai, .H., Honmura, Y., Kurimoto, F., Komagata, H. and Yoneda, S. Detection of epidermal growth factor receptor gene mutations in histologic and cytologic specimens of non-small cell lung cancer by fragment analysis and polymerase chain. Reaction-restriction fragment length polymorphism (PCR-RFLP)

- analysis. ESMO2006 Poster Symposium Molecular markers. Sep 30, Istanbul, Turkey
- 94) 山本 尚吾、緑川 泰、森川 鉄平、石川 俊平、上村 直子、赤木 究、西村 洋治、坂本 裕彦、幕内 雅敏、油谷 浩幸、高密度オリゴヌクレオチドアレイを用いた同時性大腸癌肝転移における網羅的染色体変異解析.第17回消化器癌発生学会 (H18.9.15, 名古屋)
- 95) 仲島晴子、山本佳世乃、土橋文枝、片桐三枝子、新井良子、赤木 究、遺伝性腫瘍における難病医療費助成制度の実態調査.第12回家族性腫瘍学会学術集会,パネルディスカッション (H18.6,大阪)
- 96) 赤木 究、新井吉子、仲島晴子、土橋文枝、八岡利昌、西村洋治.3種類のDNAミスマッチ修復酵素遺伝子に変異を認めたHNPCC症例.第12回家族性腫瘍学会学術集会. (H18.6,大阪)
- 97) 菅野康吉、赤木 究、他11名.非遺伝性ポリポーシス大腸癌(HNPCC)のリスク評価と遺伝子診断の適応.第12回家族性腫瘍学会学術集会. (H18.6,大阪)
- 98) Sakai, H., Akagi, K., Sudoh, J., Yoneda, S., Komagata, H., Kurimoto, F. and Hommura, Y. EGFR mutation analysis in histologic and cytologic specimens of non-small-cell lung cancer. ASCO ANNUAL MEETING JUNE2-6, 2006, ATLANTA, GEORGIA
- 99) 須藤淳子、酒井 洋、栗本太嗣、駒形浩史、赤木 究、気管支鏡下組織・細胞診検体を用いた非小細胞肺癌EGFR 遺伝子変異の検討. 第29回日本呼吸器内視鏡学会. (H18.6, 茨城)
- 100) 須藤淳子、栗本太嗣、本村泰雄、駒形浩史、酒井洋、米田修一、赤木 究、非小細胞肺癌における生検組織および細胞診検体を用いたEGFR 遺伝子変異検出の試み. 第46回日本呼吸器病学会 (H18.6, 東京)
- 101) 土屋永寿、小林康人、西村仁志、石川雄一、中川健、佐藤之俊:肺神経内分泌腫瘍の組織分類に客観性を付与する分子マーカー. 第63回日本癌学会学術総会 (2004)、福岡
- 102) 稲村健太郎、佐藤之俊、石川俊平、土屋永寿、深山正久、石川雄一:肺扁平上皮癌の遺伝子発現プロファイルによる subclassification. 第94回日本病理学会総会 (2005) p293、横浜
- 103) 石川暢久、醍醐弥太郎、高野淳、谷脇雅也、加藤達哉、早馬聡、土屋永寿、河野修興、中村祐輔:血清マーカーを用いた非小細胞肺癌の gefitinib 感受性予測診断法の構築. 第64回日本癌学会総会 (2005) p41、札幌
- 104) 鈴木千恵、醍醐弥太郎、石川暢久、加藤達哉、早馬聡、中鶴修一、土屋永寿、中村祐輔:非小細胞肺癌の進展、憎悪に關与する新規遺伝子IMS-KN08の同定とその機能解析. 第64回日本癌学会総会 (2005) p239、札幌
- 105) 早馬聡、醍醐弥太郎、加藤達哉、中鶴修一、土屋永寿、近藤哲、中村祐輔:非小細胞肺癌特異的な癌-精巢抗原 IMS-CL54 および IMS-CL81 の同定と機能解析. 第64回日本癌学会総会 (2005) p240、札幌
- 106) 新明卓夫、小林康人、宮城洋平、石川雄一、中川健、長田博昭、土屋永寿:肺扁平上皮癌の p53 遺伝子解析による発生部位別発癌原因の検討. 第64回日本癌学会総会 (2005) p330、札幌
- 107) 二宮浩範、稲村健太郎、佐藤之俊、土屋永寿、石川雄一:肺癌 gefitinib 投与症例におけるEGF 受容体遺伝子変異の有無と細胞学的特徴. 第64回日本癌学会総会 (2005) p391、札幌
- 108) 平山美也子、松本裕文、松田正典、二宮浩範、倉田盛人、稲村健太郎、佐藤之俊、石川雄一、土屋永寿:肺末梢の線毛性粘液結節性乳頭状腫瘍:新 entity の提唱と組織学的検討. 第64回日本癌学会総会 (2005) p398、札幌
- 109) 稲村健太郎、二宮浩範、佐藤之俊、油谷浩幸、石川俊平、星田有人、藤原大、野村仁、嶋根みゆき、砂河孝行、深山正久、土屋永寿、石川雄一:網羅的遺伝子発現解析による肺扁平上皮癌の亜型分類の試み.第64回日本癌学会総会 (2005) p402、札幌

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

角 純子

「NM23 蛋白質の測定方法及びそれを用いた悪性腫瘍の診断方法」

特許第3557367号

平成16年5月21日 特許権取得

##### 2. 出願中2件

林 慎一

1) 出願番号:特願 2005-160621 出願日:2005.05.31

名称：遺伝子導入細胞

2) 出願番号：特願 2005-160685 出願日：2005.05.31

名称：細胞分析方法

## II. 研究成果の刊行に関する一覧表 (平成 16 年度～平成 18 年度)

- 1) Zhang, Y., Zelenik-le, N., Emmanuel, N., Jayathilaka, N., Chen, J., Strissel, P., Strick, R., Li, L., Neilly, MB., Taki, T., Hayashi, Y., Kaneko, Y., Schlegelberger, B. and Rowley, JD. Characterization of genomic breakpoints in MLL and CBP in leukemia patients with t(11;16). *Genes Chromosomes Cancer*, 41: 257-265, 2004.
- 2) Yuki, Y., Imoto, I., Imaizumi, M., Hibi, S., Kaneko, Y., Amagasa, T, and Inazawa, J. Identification of a novel fusion gene in a pre-B acute lymphoblastic leukemia with t(1;19)(q23;p13). *Cancer Sci.*, 95: 503- 507, 2004.
- 3) Ishiguro, M., Iwasaki, H., Ohjimi, Y. and Kaneko, Y. Establishment and characterization of a renal cell carcinoma cell line (FU-UR-1) with the reciprocal ASPL-TFE3 fusion transcript. *Oncology Rep.*, 11: 1169-1175, 2004.
- 4) 金子安比古 : ウィルムス腫瘍の染色体異常と遺伝子異常。細胞、36: 273-277, 2004.
- 5) 金子安比古 : 骨軟部腫瘍の染色体転座・融合遺伝子。日本医事新報、4185: 92-94, 2004.
- 6) Tsuchiya, T., Osanai, T., Ogose, A., Tamura, G., Chano, T., Kaneko, Y., Ishikawa, A., Orui, H., Wada, T., Ikeda, T., Namba, M., Takigawa, M., Kawashim, H., Hotta, T., Tsuchiya, A., Ogino, T. and Motoyama, T. Methylation status of EXT1 and EXT2 promoters and two mutations of EXT2 in chondrosarcoma. *Cancer Genet. Cytogenet*, 158 : 148-55, 2005.
- 7) Kozu, T., Fukuyama, T., Yamami, T., Akagi, K. and Kaneko, Y. MYND-less splice variants of AML1-MTG8 are expressed in leukemia with t(8;21). *Genes Chromosomes Cancer*, 43: 45-53, 2005.
- 8) Namiki, T., Yanagawa, S., Izumo, T., Ishikawa, M., Tachibana, M., Kawakami, Y., Yokozeki, H., Nishioka, K. and Kaneko, Y. Genomic alterations in primary cutaneous melanomas detected by metaphase comparative genomic hybridization with laser capture or manual microdissection: 6p gains may predict poor outcome. *Cancer Genet. Cytogenet*, 157 : 1-11, 2005.
- 9) Satoh, Y., Nakadate, H., Nakagawachi, T., Higashimoto, K., Joh, K., Masaki, Z., Uozumi, J., Kaneko, Y., Mukai, T. and Soejima, H. Genetic and epigenetic alterations on the short arm of chromosome 11 are involved in a majority of sporadic Wilms' tumours. *Br J Cancer*, 95: 541-547, 2006.
- 10) Hakozaiki, M., Hojo, H., Sato, M., Kaneko, Y., Watanabe, N., Kikuchi, S., Abe, M. Establishment and characterization of a new cell line, FRTK-1, derived from human malignant rhabdoid tumor of the kidney, with overexpression of epidermal growth factor receptor and cyclooxygenase-2. *Oncol Rep*, 16: 265-271, 2006.

- 11) Ishiguro, M., Iwasaki, H., Takeshita, M., Hirose, Y., Kaneko, Y. A cytogenetic analysis in two cases of malignant peripheral nerve sheath tumor showing hypodiploid karyotype. *Oncol Rep*, 16: 225-232, 2006.
- 12) Sugawara, W., Haruta, M., Sasaki, F., Watanabe, N., Tsunematsu, Y., Kikuta, A., Kaneko, Y. Promoter hypermethylation of the *RASSF1A* gene predicts the poor outcome of patients with hepatoblastoma. *Pediatr Blood & Cancer*, E-pub, 2006.
- 13) Honsei, N., Ikuta, T., Kawana, K., Kaneko, Y., and Kawajiri, K. Participation of nuclear localization signal 2 in the 3'-ETS domain of FLI1 in nuclear translocation of various chimeric EWS-FLI1 oncoproteins in Ewing tumor. *Int J Oncology*, 29: 689-693, 2006.
- 14) Watanabe, N., Nakadate, H., Haruta, M., Sugawara, W., Sasaki, F., Tsunematsu, Y., Kikuta, A., Fukuzawa, M., Okita, H., Hata, J., Hidenobu, H., and Kaneko, Y. Association of 11q loss, trisomy 12 and possible 16q loss with loss of imprinting of insulin-like growth factor-II in wilms tumor. *Genes Chromosomes Cancer*, 45: 592-601, 2006.
- 15) Kaneko, Y., Kobayashi, H., Watanabe, N., Tomioka, N. and Nakagawara, A. Biology of neuroblastomas that were found by mass screening at 6 months of age in Japan. *Pediatr Blood & Cancer*, 46: 285-291, 2006.
- 16) Kaneko, Y. Neuroblastomas that might benefit from mass screening at 6 months of age in Japan. *Pediatr Blood & Cancer*, 48: 245-246, 2007.
- 17) Takahashi, K., Kohno, T., Matsumoto, S., Nakanishi, Y., Arai, Y., Yamamoto, S., Fujiwara, T., Tanaka, N. and Yokota, J. Clonal and parallel evolution of primary lung cancers and their metastases revealed by molecular dissection of cancer cells. *Clin Cancer Res*, 13: 111-120, 2007.
- 18) Zhang, Z., Yamashita, H., Toyama, T., Sugiura, H., Omoto, Y., Ando, Y., Mita, K., Hamaguchi, M., Hayashi, S. and Iwase, H.. HDAC6 expression is correlated with better prognosis in breast cancer. *Clin. Cancer Res.*, 10 : 6962-6968, 2004.
- 19) Yoshida, N., Omoto, Y., Inoue, A., Eguchi, H., Kobayashi, Y., Kurosumi, M., Suemasu, K., Higashi, Y., Okazaki, T., Kiyama, R., Nakachi, K., Fujita, T. and Hayashi, S. Prediction of prognosis of estrogen receptor-positive breast cancer with combination of selected estrogen-regulated genes. *Cancer Science*, 95: 496-502, 2004.
- 20) Inoue, A., Omoto, Y., Yamaguchi, Y., Kiyama, R. and Hayashi S. Transcription factor EGR3 is involved in the estrogen-signaling pathway in breast cancer cells.. *J. Mo. Endocrin.*, 32: 649-661, 2004.
- 21) Terasaka, S., Aita, Y., Inoue, A., Hayashi, S., Nishigaki, M., Aoyagi, K., Kiyama, Y.,



- Sakuma, Y., Akaba, S., Tanaka, J., Sone, H. Yonemoto, J., Tanji, M. and Kiyama, R.. Expression profiling of the estrogen responsive genes for evaluation of estrogen activity among natural estrogens and industrial chemicals. *Environ. Health Persp. Toxicogenomics*, 112 : 773-781, 2004.
- 22) Hayashi, S. Prediction of hormone sensitivity by DNA microarray. *Biomedicine & Pharmacotherapy*, 58 : 1-9, 2004.
- 23) 林 慎一、鈴木 貴：核内受容体研究における進展. 特集・ホルモン療法の最近の進歩、細胞, 36: 388-391, 2004.
- 24) 林 慎一：異所性ホルモン産生腫瘍の発生と増殖. 特集・異所性ホルモン産生腫瘍, 日本臨床, 62 : 848-850, 2004.
- 25) 林 慎一：乳癌における ER  $\alpha$ 、 $\beta$  の発現・機能と臨床応用. *ホルモンと臨床*, 52: 83-89, 2004.
- 26) 林 慎一：DNA マイクロアレイを用いた乳癌のホルモン依存性に関する研究—臨床応用を目指して—. *Breast Cancer Today (Elsevier Japan)*, 20: no.2, 2-11, 2004.
- 27) 林 慎一：乳腺領域幹細胞と乳癌の発生. *医学の歩み*, 別冊, 乳腺疾患-state of arts, p8-10, 2004.
- 28) Saji, S., Kawakami, M., Hayashi, S., Yoshida, N., Hirose, M., Horiguchi, S., Itoh, A., Funada, N., Schreiber, S.L., Yoshida, M. and Toi, M. Significance of HDAC6 regulation via estrogen signaling for cell motility and prognosis in estrogen receptor-positive breast cancer. *Oncogene*, 24: 4531-4539, 2005.
- 29) Yamaguchi, Y., Takei, H., Suemasu, K., Kobayashi, Y., Kurosumi, M., Harada, N. and Hayashi, S. Tumor-stromal interaction through the estrogen- signaling pathway in human breast cancer. *Cancer Res.*, 65: 4653-4662, 2005.
- 30) Ishibashi, H., Suzuki, T., Suzuki, S., Niikawa, H., Lu, L., Miki, Y., Moriya, T., Hayashi, S., Handa, M., Kondo, T. and Sasano, H. Progesterone receptor in non-small cell lung cancer: a potent prognostic factor and novel target for endocrine therapy. *Cancer Res.*, 65 (14) : 6450-6458, 2005.
- 31) Hayashi, S. and Yamaguchi, Y. Estrogen signaling and prediction of endocrine therapy. *Cancer Chemother. Pharmacol.*, 56 : 27-31, 2005.
- 32) 林 慎一：エストロゲン応答遺伝子. *医学のあゆみ*, 212: 231-232, 2005.
- 33) Miki, Y., Clyne, C.D., Suzuki, T., Moriya, T., Shibuya, R., Nakamura, Y., Ishida, T., Yabuki, N., Kitada, K., Hayashi, S. and Sasano, H. Immunolocalization of liver receptor homologue-1 (LRH-1) in human breast carcinoma: possible regulator of in situ

- steroidogenesis. *Cancer Let.*, 244, 24-33, 2006.
- 34) Suzuki, T., Hayashi, S., Miki, Y., Ono, K., Nakamura, Y., Moriya, T., Sugawara, A., Ishida, T., Ohuchi, N. and Sasano H. Peroxisome proliferator-activated receptor  $\gamma$  (PPR  $\gamma$ ) in human breast carcinoma: a possible modulator of estrogenic actions. *Endocrine-Related Cancer*, 13, 233-250, 2006.
- 35) Hayashi, S. and Yamaguchi, Y. Basic research for hormone-sensitivity of breast cancer. *Breast Cancer*, 13(2)Apr., 123-128, 2006.
- 36) Ota, K., Ito, K., Suzuki, T., Saito, S., Tamura, M., Hayashi, S., Okamura, K., Sasano, H. and Yaegashi, N. Peroxisome proliferators-activated receptor  $\gamma$  and growth inhibition by its ligands in uterine endometrial carcinoma – a possible link between obesity and endometrial malignancy. *Clin. Cancer Res.*, 12(14)July, 4200-4208, 2006.
- 37) Suzuki, T., Miki, Y., Moriya, T., Akahira, J., Ishida, T., Hirakawa, H., Yamaguchi, Y., Hayashi, S. and Sasano, H.  $5\alpha$ -reductase type 1 and aromatase in breast carcinoma as regulators of in situ androgen production. *Int. J. Cancer*, 120, 285-291, 2006.
- 38) Inoue, A., Seino, Y., Terasaka, S., Hayashi, S., Yamori, T., Tanji, M. and Kiyama, R. Comparative profiling of the gene expression for estrogen responsiveness in cultured human cell lines. *Toxicology In Vitro*, in press, 2007.
- 39) Sogon, T., Masamura, S., Hayashi, S., Santene, R.J., Nakachi, K., and Eguchi, H. Demethylation of promoter C region of estrogen receptor  $\alpha$  gene is correlated with its enhanced expression in estrogen-ablation resistant MCF-7 cells. *J. Steroid Biochem. Mol. Biol.*, in press, 2007.
- 40) Miki, Y., Suzuki, T., Tazawa C., Yamaguchi, Y., Kitada, K., Honma, S., Moriya, T., Hirakawa, H., Evans, D.B., Hayashi, S., Ohuchi, N. and Sasano, H. Aromatase localization in human breast cancer tissues – possible interaction between intratumoral stromal and parenchymal cells. *Cancer Res.*, in press, 2007.
- 41) Hayashi, S., Suzuki, T., Ito, K., Matsumoto, M., Sasano, H., Yaegashi, N. Biosynthesis and action of estrogen in gynecological cancers. *Reproductive Oncology* (ed. J. Fujimoto), Research Signpost, India, 2007, in press.
- 42) 林 慎一 : エストロゲン応答遺伝子—乳癌の診断と治療の新たな候補. 癌治療と宿主, 特集・ホルモン療法の進歩, 18(1): 17-23, 2006.
- 43) 坂本宙子、林 慎一 : 3次元マイクロアレイ. 医学のあゆみ, 218: 741-742, 2006.
- 44) 林 慎一 : 乳癌の発生と乳癌幹細胞, *Mamma*, 54: 27-31, 2006.
- 45) 林 慎一 : ホルモン治療における効果予測因子と個別化癌治療. *Pharma Medica*, 24:

No11, 29-33, 2006.

- 46) 林 慎一、山口ゆり：ホルモン療法反応性と乳癌微小環境。乳癌の臨床，特集・乳癌ホルモン療法の進歩-基礎と臨床，Vol. 22, No1, 6-12, 2007.
- 47) 林 慎一：内分泌療法感受性予測因子。日本臨床増刊・乳癌－基礎・臨床研究のアップデート，印刷中
- 48) Niitsu, N., Nakamine, H., Okamoto, M., Akamatsu, H., Higashihara, M., Honma, H., Okabe-Kado, J., and Hirano, M. Clinical significance of nm23-H1 proteins expressed in cytoplasm in diffuse large B-cell lymphoma. Clin. Cancer Res., 10: 2482-2490, 2004.
- 49) Yokoyama, A., Yamashita, T., Shiozawa, E., Nagasawa, A., Okabe-Kado, J., Nakamaki, T., Tomoyasu, S., Kimura, F., Motoyoshi, K., Honma, Y. and Kasukabe, T. MmTRA1b/ phospholipid scramblase 1 gene expression is new prognostic factor for acute myelogenous leukemia. Leukemia Res., 28: 149-157, 2004.
- 50) Okabe-Kado, J., Kasukabe, T., Honma, Y., Hanada, R., Nakagawara, A. and Kaneko, Y. Clinical significance of serum NM23-H1 protein in neuro-blastoma. Cancer Sci., 96: 653-660, 2005.
- 51) Kasukabe-T., Okabe-Kado, J., Kato, N., Sassa, T. and Honma, Y. Effects of combined treatment with rapamycin and cotylenin A, a novel differentiation -inducing agent, on human breast carcinoma MCF-7 cells and xenografts. Breast Cancer Res., 7: R1097 -R1110, 2005
- 52) Ishikubo, T., Nishimura, Y., Yamaguchi, K., Khansuwan, U., Arai, Y., Kobayashi, T., Ohkura, Y., Hashiguchi, Y., Tanaka, Y. and Akagi, K.. The clinical features of rectal cancers with high-frequency microsatellite instability (MSI-H) in Japanese males. Cancer Let., 8: 216(1): 55-62. 2004.
- 53) Yagura, T., Bidyut, R., Nishikawa, S., Karasawa, A., Yamaguchi, K., Ogata, M., Kobayashi, T. and Akagi, K. Identification and allelic frequencies of a novel polymorphism in human Ku70 gene. Kwansai Gakuen University Natural Sciences Review, 9 : 17-21, 2004.
- 54) Suganuma, M., Kuzuhara, T., Yamaguchi, K. and Fujiki, H. Carcinogenic role of tumor necrosis factor-alpha inducing protein of helicobacter pylori in human stomach. J. Biochem Mol. Biol., Review, 39 (1) : 1-8, 2006.
- 55) Yamaguchi, K., Shimamura, T., Komatsu, Y., Takagane, A., Yoshioka, T., Saitoh, S., Munakata, M., Sakata, Y., Sato, T., Arai, T. and Saitoh, H. Phase I-II study of biweekly paclitaxel administration with fixed dose-rate cisplatin in advanced gastric cancer. East Japan Gastric Cancer Study Group, Gastric Cancer, 9: 36-43, 2006.

- 56) Akagi K., Uchibori R., Yamaguchi K., Kurosawa K., Tanaka Y. and Koza T. Characterization of a novel oncogenic K-ras mutation in colon cancer. *Biochem Biophys Res Commun.* 352, 728-732, 2006.
- 57) Tanaka Y., Akagi K., Nakamura Y. and Koza T. RNA aptamers targeting the C-terminal of KRAS oncoprotein generated by an improved SELEX with isothermal RNA amplification. *Nucleic Acids Res.* in press.
- 58) 山本佳世乃、仲島晴子、土橋文枝、片桐三枝子、新井良子、田村智英子、赤木 究. 遺伝性腫瘍における公的医療費助成制度の実態調査. *家族性腫瘍*, 7 (1), 54-58, 2007.
- 59) Ishikubo T., Akagi K., Kurosumi M., Yamaguchi K., Fujimoto T., Sakamoto H., Tanaka Y. and Ochiai A. Immunohistochemical and mutational analysis of c-kit in gastrointestinal neuroendocrine cell carcinoma. *Jpn. J. Clin. Oncol.*, 36(8), 494-498, 2006.
- 60) Kobayashi, K., Tokuchi, Y., Hashimoto, T., Hayashi, M., Nishimura, H., Ishikawa, Y., Nakagawa, K., Sato, Y., Takahashi, A. and Tsuchiya, E. Molecular markers for reinforcement of histological subclassification of neuroendocrine lung tumors. *Cancer Sci.*, 95: 334-41, 2004.
- 61) Ishikawa, N., Daigo, Y., Yasui, W., Inai, K., Nishimura, H., Tsuchiya, E., Kohno, N. and Nakamura, Y. ADAM8 as a novel serological and histochemical marker for lung cancer. *Clin. Cancer Res.*, 10 : 8363-70, 2004.
- 62) Chinen, K., Ohkura, Y., Matsubara, O. and Tsuchiya, E. Hemophagocytic syndrome associated with clostridial infection in a pancreatic carcinoma patient. *Pathol. Res. Practice*, 200 : 241-245, 2004.
- 63) 石川雄一、土屋永寿. 肺癌、病理診断に役立つ分子病理学・10、シリーズ最新医学講座・II. 臨床検査 48: 1167-72, 2004.
- 64) Inamura, K., Satoh, Y., Okumura, S., Nakagawa, K., Tsuchiya, E., Fukayama, M. and Ishikawa, Y. Pulmonary adenocarcinomas with enteric differentiation: histologic and immunohistochemical characteristics compared with metastatic colorectal cancers and usual pulmonary adenocarcinomas. *Am. J. Surg. Pathol.*, 29 : 660-665, 2005.
- 65) Inamura, K., Fujiwara, T., Hoshida, Y., Isagawa, T., Jones, MH., Virtanen, C., Shimane, M., Satoh, Y., Okumura, S., Nakagawa, K., Tsuchiya, E., Ishikawa, S., Aburatani, H., Nomura, H. and Ishikawa, Y. Two subclasses of lung squamous cell carcinoma with different gene expression profiles and prognosis identified by hierarchical clustering and non-negative matrix factorization. *Oncogene*. 24: 7105- 7113, 2005.
- 66) Furukawa, C., Daigo, Y., Ishikawa, N., Kato, T., Ito, T., Tsuchiya, E., Sone, S. and

- Nakamura, Y. Plakophilin 3 oncogene as prognostic marker and therapeutic target for lung cancer. *Cancer Res.*, 65 : 7102-7110, 2005.
- 67) Satoh, Y., Ishikawa, Y., Inamura, K., Okumura, S., Nakagawa, K. and Tsuchiya, E. Classification of parietal pleural invasion at adhesion sites with surgical specimens of lung cancer and implications for prognosis. *Virchows Arch.* , 447: 984-989, 2005.
- 68) Ishikawa, N., Daigo, Y., Takano, A., Taniwaki, M., Kato, T., Hayama, S., Murakami, H., Takeshima, Y., Inai, K., Nishimura, H., Tsuchiya, E., Kohno, N. and Nakamura, Y. Increases of amphiregulin and transforming growth factor-alpha in serum as predictors of poor response to gefitinib among patients with advanced non-small cell lung cancers. *Cancer Res.* 65 : 9176-9184, 2005.
- 69) Suzuki, C., Daigo, Y., Ishikawa, N., Kato, T., Hayama, S., Ito, T., Tsuchiya, E. and Nakamura, Y. ANLN plays a critical role in human lung carcinogenesis through the activation of RHOA and by involvement in the phosphoinositide 3-kinase/AKT pathway. *Cancer Res.*, 65: 11314-25, 2005.
- 70) Shimmyo, T., Hashimoto, T., Kobayashi, Y., Miyagi, Y., Ishikawa, Y., Nakagawa, K., Osada, H. and Tsuchiya, E. p53 mutation spectra for squamous cell carcinomas at different levels of human bronchial branches. *Int. J. Cancer*, 119 : 501-507, 2006.